



2026.11

広報 おおくわ

●シェルビービル市訪問 …… 5～8Ｐ

No.625

リサイクル品とごみは正しく分別しましょう

リサイクルステーションの収集品目はすべて**汚れていないものが対象**です。
ステーションごとに収集品目が異なりますので、ルールを再確認して正しく分別をしてください。

収集品目	注意事項	収集しているリサイクルステーション
ペットボトル	▶ラベルを剥がす。きれいに洗って乾かす。 ▶瓶のシールは無理に剥がさなくても収集可。	村内すべて
発泡スチロール		
リサイクル瓶		
蛍光管	▶✖LED管、電球、グロー球 ⇒不燃ごみ（ガラス）へ	
新聞紙	▶新聞紙の中にチラシは入れない。 ▶それぞれ分けて縛る。	くわっこ工房
雑誌		
チラシ		
アルミ缶	▶きれいに洗って乾かす。	
段ボール	▶シール・ガムテープ・金具などは取り除き、ヒモで縛る。	くわっこ工房、役場駐車場
紙製飲料パック	▶切り開いてきれいに洗って乾かす。 ▶✖内側がアルミ（銀色）のもの ⇒可燃ごみへ	くわっこ工房、須原駅前、門前下集会所前、役場駐車場、商工会横
雑がみ （古紙・お菓子の箱・トイレットペーパーの芯・ティッシュペーパーの箱など）	▶✖カーボン紙・感熱紙・テープ・シール・臭いの強い紙（線香や石けんの箱など）・ラップの芯など硬い紙 ⇒可燃ごみへ	役場駐車場

- 段ボール、雑がみは指定日にごみ収集場所での収集も行っています。（雨や雪の日は収集しません。）
- 「ゴミカレンダー」と「リサイクルとごみの出し方の手引き」を活用してください。
- 正しくリサイクルをしてごみの減量にご協力をお願いします。

▶問い合わせ先　住民課 生活環境係　TEL**55-3080

日本年金機構からのお知らせ

年末調整や確定申告で社会保険料の控除を受ける場合、令和８年中に納めた国民年金保険料の全額が対象です。日本年金機構から下表の日程で送付される「社会保険料（国民年金保険料）控除証明書」を申告の際に添付してください。

なお、家族の国民年金保険料を納付した場合も控除の対象となります。

送付時期	送付方法	国民年金保険料納付期間
令和８年10月中旬から10月下旬	電子送付	令和８年１月１日から９月30日
令和８年10月下旬から11月上旬	郵　送	令和８年１月１日から９月30日
令和９年１月下旬	電子送付	令和８年10月１日から12月31日
令和９年２月上旬	郵　送	令和８年10月１日から12月31日

※マイナポータルから「ねんきんネット」にログインし、電子送付の登録をすると、電子版を受け取ることができます（登録をすると郵送は停止します）。

▶問い合わせ先　ねんきん加入者ダイヤル　TEL 0570-003-004（ナビダイヤル）

JR野尻駅の建替えについて

JR東海が野尻駅の建替えを計画していることについて、村に対し次のような説明がありました。

理　由

野尻駅は築118年が経過し老朽化が著しく維持管理が困難である。

新駅舎の規模

乗降客数／日を基に社内基準で算定し、床面積8㎡の待合所となる。

切符販売の扱い

村が実施している切符販売を継続する場合は、施設整備費用の村負担分は約3千万円と想定される。

住民説明について

住民説明会や住民意見聴取は実施しない。他の駅舎建替工事でも実施していない。村が説明会を主催する場合もJRの出席はない。

工事計画

▼令和8年末頃～9年末　設計
▼令和9年末頃～10年末　工事

これらの説明に対し、村から質問・要望を伝えたところ、JRから次のとおり回答がありました。

Q 現駅舎の「改修」にできないか？
A 相当の維持費が発生するため困難である。

Q 駅舎規模を拡大できないか？
A 社内基準に則って決定している。

Q 多額の費用負担は対応困難。代替としてキャッシュレス対応はできないのか？
A 整備費用は実際に発生する金額である。キャッシュレスはすぐに対応できない。

Q 住民向け説明会を開催されたい。
A 不実施は会社の方針であり、実績もない。

Q 工事計画はJRが責任を持って周知されたい。
A 工事着手1か月前に周知予定である。

村では協議の結果を踏まえるとともに、駅舎・駅前広場含む敷地がJRの所有であることをもって、駅舎建替工事に対して村が関与できる余地はないと判断しました。また、切符販売については、今後のキャッシュレス化の実現が見通せないこと及び継続した場合に村の費用負担が莫大になることから、駅舎建替えに併せて廃止します。

百歳祝賀

100歳の誕生日を迎えた矢嶋文彦さん（野尻上町下）に、内閣総理大臣、長野県知事、大桑村長からの祝い状のほか、長寿祝い金と祝い品の銀杯が贈呈されました。

坂家村長から花束を手渡された矢嶋さんは、「忙しい中お祝いに来ていただいてありがたい」と感慨深げに受け取りました。

妻のちか子さんと共にしばしの間村長と談笑し、矢嶋さんは「近所の方や地域の皆さんの支えがあって長生きができている」と話してくれました。



子ども・若者育成支援強調月間

11月は「子ども・若者育成支援強調月間」です。

子ども・若者が過ごす「場」としての情報通信環境（インターネット空間）の存在感が増す一方で、違法・有害情報や虚偽情報の拡散、SNSに起因する犯罪被害、ネット上の誹謗中傷等、インターネット利用の弊害は深刻なものとなり、子どもを取り巻く社会問題は複雑化しています。社会生活を円滑に営む上で困難を有する子ども・若者の問題や少年非行、児童虐待等の解決には地域が一体となって取り組むことが重要です。

重点課題

❶ インターネット利用における子どもの犯罪被害等の防止
❷ 有害環境等から守るための取組の推進
❸ 児童虐待の予防と対応

▼問い合わせ先
教育委員会 子ども教育係
TEL ＊＊55-1020

第24回

村長コラム

「深まる夜長 本とともに過ごしましょう」

大桑村図書館は、6月末から約1週間休館していました。カーテンが引かれ、その向こうでは何が行われているのかと、私は気になって仕方ありませんでした。覗いてはいけない「鶴の機織り」を覗いてみるような気持ちで中へ入ってみました。

そこではなんと、図書館スタッフ全員汗だくになりながら、形も大きさも違う図書を一冊一冊書架から下ろし、点検作業をしていました。

司書に聞くと、こうした作業を「曝書」と言い、大切な本を湿気や虫から守るための伝統的な作業とのことです。現代では蔵書の状態確認と、台帳と突き合わせる「蔵書点検」のことを言うそうですが、毎年2万冊余の蔵書を1冊ずつ確認する作業は大仕事です。気になって覗いてみたおかげで、普段見ることのできないバックヤードの仕事を知ることができました。

いつも多くの方に図書館を利用いただいております。様々な理由で利用できていない方もいるかと思いますが、どうぞ気軽にお立ち寄りください。本を読まなくてもどんな本が並んでいるか眺めるだけでも楽しむことができます。

「読みたい本が見つからない」そんなときは図書館スタッフにお声がけください。きっと、あなたを夢中にさせる本を探してくれます。



村長室に来てみませんか

村長室で気楽に話をする場「村長と話そう！」12月の日程は次のとおりです。

▼**第43回　12月15日㈫**

参加を希望する人は12月8日㈫までに役場へ連絡してください。話す内容は要望、雑談など自由です。

気軽に申し込んでください。

▼**問い合わせ先**
総務課 総務係
TEL＊＊55-3080

column

地域おこし協力隊です。

木曽と愛知を「教育」でつなげる取り組み

神保 裕世

私たちの住む木曽には豊かな森林があります。木があります。そして、長い時間をかけて受け継がれてきた知恵や技術があります。一方で都市部には、森林や木と日常的に触れ合う機会が少ない子どもたちがいます。この両者を「教育」という切り口でつなぐことができないか。

私は現在、自治体が持つさまざまな予算や制度も活用しながら、大桑村や木曽エリアの森林資源と、都市部の子どもたちをつなぐ企画と提案を進めています。そのひとつが「木曽未来社長キッズプロジェクト」です。

この企画では、子どもたちが森林や木材、地域文化について学びながら、地域の職人や事業者と一緒に商品を考え、作り、最後には自分たちで販売する「ミニ起業」を体験します。単にものづくりを体験して終わるのではなく、「誰に届けたいのか」「どんな商品なら喜んでもらえるのか」「いくらで販売するのか」といったことまで考え、子どもたち自身が〝小さな社長〟として取り組む内容です。

森林を「見る」だけではなく、知る、考える、作る、売る。こうした一連の体験を通して、森林や木材、地域の仕事をより身近に感じてもらい、また、より深い、もしかしたら人生に残るような体験と感動につながるのではないかと考えているのです。

子どもたちにとっては森や木について学び、ものづくりや仕事に触れる機会に。木曽にとってはこの地域を知ってもらい、訪れてもらうきっかけに。そして、その先に地域同士の交流や新しい関係づくりが生まれていくことを目指しています。

現在は、自治体への提案や事業化に向けた準備を進めながら、どのような形であれば双方にとって意味のある取り組みにできるのかを検討している段階です。

実現のためにはまだまだ越えねばならない壁がたくさんあります。構想を形にしていく途中ではありますが、木曽の資源と地域、人、子どもをつなげられる、わくわくする取り組みに育てていきたいです。



シェルビービル市訪問

▲ウェルカムサインの前で握手を交わすシェルビービル市ジョンソン市長と坂家村長

姉妹都市シェルビービル市（アメリカ合衆国イリノイ州）との国際交流事業では、高校生が隔年で相互の国を訪問し、ホームステイをして交流しています。

今年は村からホームステイを行う高校生３人と坂家村長、通訳として藤原議員、職員１人が渡米し、交流を行いました。

期間は日本時間の８月27日から９月４日までの７泊９日で行われ、高校生はホストファミリーの下で現地の学校生活や日常生活を体験しました。村長をはじめ随行者は、ＩＨＩターボアメリカやミドルスクール、ハイスクールなどの市内各所に加え、観光誘致に成功した町やアメリカの歴史に影響を与えたリンカーン元大統領が住んだ町など、近隣の町の視察を行いました。



▶ダウンタウンの一画に敷かれたレンガには、過去の相互交流に参加した両市村の訪問者の名前が刻まれています

来年は30周年

村とシェルビービル市は、両地域に現在の㈱ＩＨＩグループの工場があることから、企業間の繋がりをきっかけに自治体間の交流が始まりました。平成９年（１９９７年）の調印以来、姉妹提携都市として交流を続けています。

来年（２０２７年）は調印から30周年を迎え、シェルビービル市からの訪問団が来村します。長年続くこの交流をより良いものとするためには、行政のみならず住民同士の繋がりが大切です。国際交流に関する提案や、やってみたいことなどがあれば、総務課企画情報係へご連絡ください。

▼問い合わせ先
総務課 企画情報係
TEL ＊＊55-3080



温かく迎え入れてくれたホストファミリーや市関係者の皆さん



ミドルスクールの児童たちへ村長から折り紙をプレゼント



工場を案内していただいたIHIターボアメリカの皆さん



ホームステイを通じて交流した高校生たち

次のページから、ホームステイに参加した高校生の感想を紹介します。

姉妹都市交流を終えて

田中 希美

私がシェルビービル市のホームステイに最初に興味を持ったのは、2年前にホームステイに行った先輩のSNSの投稿や思い出話を聞いて、「楽しそうだなぁ」となんとなく思ったことがきっかけです。

はじめは些細なきっかけでしたが、あの時に興味を持ったおかげで今まで経験したことのないことをたくさん経験し、一生忘れられない思い出を作ることができました。

私がホームステイをした家の高校生はキンドルという名前の女の子でした。キンドルは去年、交換留学で大桑村を訪れていて、私たちの学校や地域についてもよく知っていました。また、ご両親も3年前に大桑村を訪れたことがあり、キンドルの弟は日本のゲームが大好きでした。

このように、家族全員が日本に興味を持ってくれていたため、初めての海外渡航で不安も多くありましたが安心して過ごすことができました。

私が快適に過ごせるように、食事や生活のことなど細かいところまで気を配ってくださり、ご家族の優しさをたくさん感じました。そのおかげでホームシックになることはほとんどなく、日本に帰りたいからではなく、「帰りたくない」という気持ちで涙が出そうになるくらい毎日楽しい時間を過ごすことができました。

約6日間のホームステイでは、アメリカならではの文化をたくさん体験できるように、毎日さまざまな予定を立ててくれていました。その中でも特に印象に残っていて、日本に帰ったらみんなに話したいと思ったのが「TPing」（ティーピーイング）というアメリカならではのいたずらです。TPingとは、夜に友達の家などの木にトイレットペーパーを巻きつけて飾るいたずらで、木に巻かれたトイレットペーパーの風になびく様子が幽霊のように見えることから、ハロウィンの時期などに行われるそうです。

TPingをした日の夕食には、ウェルカムディナーに呼んでいただき、今回の交換留学に関わっている方々と一緒にビュッフェ形式の食事をしました。ディナーが終わった後、女子4人でスーパーにトイレットペーパーを買いに行き、家にいる人にバレないようにくすくす笑いながら木に巻きつけました。日本ではこのようないたずらをする機会はほとんどないうえ、夜遅くに友達と外に出て遊ぶこともあまりないのでとても新鮮で楽しかったです。また、バレるかもしれないというハラハラ感と、みんなでこそこそ作業していることが面白くて息ができなくなるくらい大笑いしました。今思い返しても、その時の楽しさをはっきりと思い出せるほど印象に残っています。

このほかにも楽しくて面白い出来事がここに書ききれないほどたくさんありました。

最初は不安でいっぱいでしたが、実際に行ってみると優しい方ばかりのとても温かい地域で緊張がすぐに解けました。今回の経験で、もっと英語を話せるようになっていつかもう一度キンドルやご家族など交流の中で出会った人たちに会いたいと強く感じました。また、今でもキンドルとはメッセージアプリを通して会話をしていて、どんどん仲が深まっています。海外の友達を作るのはなかなか機会がないと思うので、この関係を大切にしていきたいです。

そして、今回このような貴重な機会に関わってくださった方々に心から感謝しています。私にとって一生忘れられない大切な思い出になりました。来年、大桑村に来るシェルビービル市の方々に会えることも今からとても楽しみにしています！





姉妹都市交流を通して

細田 真彩

中学生の時から姉妹都市との交換留学に興味がありました。高校2年生になって、「来年は受験生だし、挑戦するならこれが最後のチャンスだ」と思い、応募しました。アメリカ行きが決まった時はとても嬉しかったですが、実感が湧かず、不思議な気持ちでした。

羽田空港に着くと不安な気持ちもありましたが、何よりも楽しみで、わくわくする気持ちが1番大きかったです。飛行機には何度か乗ったことがありましたが、13時間もの長いフライトは初めてだったので、少し緊張しました。

しかし、いざ乗ってみるとCAさんはとても親切で、機内食も美味しく、思っていたよりも快適に過ごすことができました。

シカゴの空港に到着し、飛行機から降りました。すれ違う人はみんな英語を話していて、お店も見たことのないものばかりで、空気の匂いも日本とは少し違った気がしました。シカゴの空港からは国内線の飛行機で1時間ほどかけ、シェルビービル市の最寄りの空港に着きました。

車で移動し、シェルビービル市のピザ屋さんに到着しました。ホストファミリーとの初対面だったので緊張していましたが、優しく出迎えてくれて、すぐに打ち解けることができました。私がお世話になったサマーズさん一家は、私と同級生の女の子のソフィア、妹のペイズリー、そして両親の4人家族でした。4人ともとてもフレンドリーで、緊張してなかなか話せなかった私に、分かりやすいようにゆっくりと自己紹介をしたり、質問をしたりしてくれました。

私が1番印象に残っているのは、ホームステイ1日目に、ソフィアの通う学校に一緒に行ったことです。アメリカでは16歳から免許が取れるらしく、学校にはみんな自分の車で登校していました。さまざまな服装や髪色の人がいて、日本にはない自由なスタイルが素敵だなと思いました。

夕方にはアメリカンフットボールの試合を見に行きました。ソフィアはチアリーディングのチームに所属していて、選手たちを一生懸命応援する姿がとてもかっこよかったです。

シェルビービル市は山が全く無く、朝日や夕日がとても綺麗に見えました。映画でしか見たことのないような雄大な土地に牧場やコーン畑が広がっていて、大桑村の自然とは対照的な景色を楽しむことができました。

アメリカでの食事は、やはりボリュームのあるものが多く、ファストフード店で食べたハンバーガーは、今でも忘れられないくらい美味しかったです。

アメリカでは朝から手の込んだ料理をすることも多いらしく、朝食にパンケーキやシナモンロールを出してくれて、毎朝幸せでした。色々なお店に連れて行ってもらい、たくさん美味しいものを食べましたが、アメリカの家庭の味を味わうことができたことが、1番嬉しかったです。

私は今回の経験を通して、英語を話すことへの抵抗が以前より減ったように感じています。

初めは翻訳機に頼りきりでしたが、徐々にジェスチャーなどの工夫もしつつ、自分から話しかけられるようになりました。正しい英語でなくても、自分の言葉で伝えようとする姿勢が大切なのだと思いました。

このような貴重な経験ができたのは、現地で温かく受け入れてくださったホストファミリーの方々をはじめ、交換留学を支えてくださった方々、そしていつも応援してくれた家族のおかげです。関わってくださったすべての方々に、心から感謝しています。この経験をこれからの学校生活や将来にも生かし、これからもさまざまなことに積極的に挑戦していきたいです。





姉妹都市交流を終えて

塚本 隼輝

私は今回の姉妹都市交流に参加するにあたって、3つの目標を立てました。

1つ目の目標は、将来、救急救命士を目指す自分が、医療先進国のアメリカで日本との「違い」を実際に感じることでした。

まずはコミュニケーションの取り方の違いを感じました。日本では初対面の人であると、相手がどんな人か、何を考えているのかなど、相手の様子をみる傾向があります。アメリカでは初対面の人でも気軽に話しかけたり、自分の意見を積極的に伝えたりする人が多く驚きました。自分から積極的に話しかけたりすることで相手を知る、相手の心を開かせているように思えました。また学校生活では、日本では間違いを恐れて発言を控えるようなことが多いですが、実際に現地の高校の授業を受けてみて、生徒が積極的に発言している姿が印象的でした。授業の様子もとても明るく良い雰囲気でした。

また、ホームステイ先での朝食作りは毎日お父さんが担当でした。日本では昔に比べて女性だけが家事を負担することは減ってきたように思いますが、母親が台所に立つイメージは残っています。当たり前のように誰よりも早く起きて朝食を作ってくれるお父さんの姿がとてもかっこよく思えました。

このように、日本とアメリカでは様々な「違い」がありました。お互いの国の「違い」を受け入れることが、お互いの文化の良い部分を取り入れていくことに繋がるのではないかと思いました。実際にアメリカに行ったことでアメリカと日本の違いを学ぶことができ、アメリカという国がとても好きになりました。

2つ目は、現地の方々に日本や大桑村の素晴らしさを伝えることです。

私は、日本からのお土産として、日本らしさのある、だるまの置物や手ぬぐい、日本のお菓子などを持っていきました。ホストファミリーのお父さんは日本に興味のある方だったのでとても喜んでくれました。日本のお菓子はハイチュウが人気でした。ホストファミリーの弟はとても気に入ってくれて、一袋食べてしまうくらいでした。また、私の高校生活の様子や大桑村のことについても話しました。ホストファミリーやその友人たちはとても興味を持って聞いてくれて嬉しかったです。

3つ目は自分の英語力を試すことです。

私は英語の教科は好きですが、いざ現地で話すとなると、自分の言語力でコミュニケーションが取れるのかとても心配でした。自分から話しかけることさえ緊張でした。実際は翻訳アプリにも頼りながらでしたが、ジェスチャーも加えながら会話することができました。相手も私の言いたいことを理解しようとしてくれていました。その気持ちが本当に嬉しかったです。

「言葉の壁」はありませんでした。間違いを恐れず、自分から伝えようとする気持ちが大切なことに気づきました。もちろん言語力はあればより楽しくコミュニケーションが取れると思うので、これからはもっと英語の勉強に力を入れていきたいと思いました。

ホストファミリーと過ごした時間は私にとってかけがえのない時間になりました。一緒に楽しく食事をしたり、湖で一緒に泳いだり、車に乗せてもらって音楽をかけみんなで笑いながら大声で歌ったり。ホストファミリーとのお別れの日が来るのがとても辛いくらいでした。ホストファミリーに出会えたことに本当に感謝しています。いつかまた会えることをお互いに約束し帰国しました。

今回の姉妹都市交流は私の人生を変えるような大きな経験になりました。このような素晴らしい経験をさせていただけたことに感謝しています。これからもこの経験を基に様々なことを学び続けていきたいと思います。

ありがとうございました。





子育てだより

こども家庭センター
（ほっとステップ）

TEL＊＊55-1215
小林　琴音　保健師

子どもの健やかな成長のために

子どもにとって、泣いたときに抱かれて泣き止むなど身近で大切な人と安心できる関係を築くことや、思い切り遊んだり様々な体験をしたりすることは、子どもの育ちやその後の成長にも影響するとても大切なことです。

子どもの育ちには「愛着」と「遊びと体験」による、安心と挑戦の循環が大切だと言われています。今回は愛着について紹介します。

愛着とは

怖くて不安を感じたときなどに保護者や身近な大人がその気持ちを受け止め、心身に寄り添うことで子どもは安心感を得ます。この経験を繰り返す中で子どもの心に獲得される安心の土台を『愛着』といい、愛着を土台に自分自身と大人や社会への基本的な信頼感を持てるようになっていきます。



乳児期（0歳～1歳頃）は、大人によって「空腹が満たされる」、うんちやおしっこをきれいにしてもらって「不快が取り除かれる」、抱かれたときに「心地よいと感じる」などを繰り返すことで、人に対する信頼感が芽生えてきます。

幼児期（1歳～6歳頃）は、それまでに育てた大人との信頼関係を土台にしながら、大人の温かい支えや励ましを受けて生活習慣の自立に向けて取り組んだり、失敗しても諦めずに行動したりする自主性が育っていきます。

小学生（6歳から12歳頃）は、自分の欲望を抑えてやらなければいけないことを理解し、学ぼうとする力が育っていきます。

子どもの頃に芽生えた信頼感は老年期（65歳以降）に至っても心の発達の土台となります。信頼感は何歳からでも育て直すことができます。

愛着は心身の健康につながる

子どもの感情の変化に気づいて大人が寄り添うことは、子ども自身や他者への理解・共感する力を育むだけでなく、脳や身体を健やかに発達させます。

米国の研究では、乳児期（0歳～1歳頃）に愛着が不安定であった子どもは32歳になった時点で、愛着が安定していた子どもより生活習慣病や呼吸器系の症状、消化器系の症状など様々な病気にかかる傾向がより高かったとする結果が出ました。

人間は感情が高まるとストレスホルモンが放出され、心拍数や血圧が上がり、筋肉が緊張します。そのときに大人が感情に寄り添い、落ち着く手助けをすることで、身体に起きた反応は徐々に落ち着き、さらに心も安定し困ったときに人に頼ることができる安心感が育ちます。こうした経験を重ねることで必要以上に周囲を気にせず、自分で考え挑戦するという生き生きとした感覚や、他者を思いやり尊重する感覚が育っていきます。大切な人から自分の気持ちを受け止めてもらったり、共感や言語化してもらったりする中で心が豊かに育まれていきます。

安心できる関係づくりのヒント

大人が子どもの怒りや悲しみ、不安などの感情を尊重し、子ども自身が落ち着くのを一緒に手伝うことが大切です。まずは次のような点を気にかけながら子どもと寄り添ってみてください。

❶子どもの好きなおもちゃを大人のカバンに入れて持ち歩く。
❷子どもが好きそうな2つの物から1つ選ばせる。
❸子どもの好きなものや興味の対象に注目してみる。
❹簡単な手伝いをお願いして、「ありがとう」と言う。
❺自分から取り組んだら、結果に関係なくたくさん褒める。

最後に

大人が「一緒にいるよ」「見守っているよ」と子どもの心と体に近づいて、子どもの気持ちに寄り添うことで、自分が「大切にされている」という実感が持てます。将来大人になる子ども達の心身の幸せのために、子どもとの関係の築き方について考えてみてください。



建設事業協力会 ボランティア

10月16日、大桑村建設事業協力会（半坂純孝会長）の会員約40名がボランティア活動を行いました。

同会は村内の建設事業者で構成され、地域貢献のため毎年ボランティア活動を行っています。

今年度は村道橋場伊奈川線の草刈りや支障木伐採、側溝清掃などの作業を行いました。

ありがとうございました。



気づく、つながる、支え合う。障害者週間

問 福祉健康課 福祉係 TEL ＊＊55-3080

12月3日から9日は障害者週間です。

誰もが輝ける共生社会を目指し、外見からは分からなくても援助や配慮を必要とする人が身に着ける「ヘルプマーク」への理解を深めましょう。

【私たちにできること】

- 電車やバスでは席を譲る
- 困っていたら「手伝いましょうか」と声をかける
- 災害時は安全に避難できるよう協力する

※マーク裏面には、手伝ってほしいことや緊急連絡先が記載されています。

【ヘルプマークの対象と配布】

- **対象**：援助や配慮が必要な人（障害者手帳の有無は不問）
- **配布**：役場窓口（代理受取可、費用および書類提出不要、1人1個まで）



▲ヘルプマーク

犯罪被害者月間

11月1日から12月1日までは「犯罪被害者月間」です。

令和7年度から「犯罪被害者週間」を「犯罪被害者月間」へ拡充し、集中的に広報啓発を行っています。

犯罪被害に遭った人やその家族、遺族には、犯罪等による直接的な被害だけでなく、経済的、精神的にも被害が生じることが多く、周囲の支えが大きな力となります。

犯罪被害者月間を機会に、犯罪被害者等が置かれている状況や平穏への配慮の重要性等についての理解を深め、より一層のご理解、ご協力をお願いします。

▲警察庁ＨＰ「犯罪被害者月間」

司法書士による年末困りごと相談会

問 長野県司法書士会 TEL 026-232-7492

年の瀬になると、お金、仕事、家族など日常生活の様々な悩みを身近な人と話し合う機会が多くなります。長野県司法書士会では、経済的困窮をはじめとした幅広い相談に司法書士が親身に応えることで、1人でも多くの人に気持ちよく新年を迎えてほしいという趣旨で、相談会を開催します。

相談日時 12月19日㈯ 10時～16時

相談方法 ＊面談相談（事前予約優先、予約なしでも可）

▼**松本会場** 松本市勤労者福祉センター

▼**長野会場** 長野市生涯学習センター（TOiGO WEST）

＊電話相談 TEL 0120-448-788（当日のみの専用番号）

夕暮れと夜間の交通事故防止について

問 長野県警察本部 TEL 026-233-0110

日没が早まるこれからの季節、夕暮れ時から夜間にかけて歩行者が被害に遭う交通事故が増加します。

ドライバーの皆さんは早めのライト点灯、ハイビームの活用を心掛け、早期に歩行者を発見して交通事故を防ぎましょう。

歩行者の皆さんは、明るい服や反射材を着用して、自分の存在をドライバーにアピールしましょう。



12月の行事予定

1	火	新入生体験入学（中学校） 健康教室（野尻地区館）
2	水	乳児ふれあい体験（中学２年生）
3	木	らくらく筋トレ教室（野尻地区館）
4	金	
5	土	推しレコ！（図書館）
6	日	
7	月	
8	火	健康教室（野尻地区館）
9	水	ゴールデンシューの日（スポーツ公園）
10	木	お店屋さんごっこ（保育園） らくらく筋トレ教室（野尻地区館）
11	金	世界をひらく読書会（図書館）
12	土	むら歩きのススメ（図書館）
13	日	
14	月	
15	火	おはなし会（図書館） 健康教室（野尻地区館）
16	水	
17	木	らくらく筋トレ教室（野尻地区館）
18	金	なんでも相談（野尻地区館）
19	土	もぐもぐリサーチ（図書館）
20	日	図書館 de シネマ（図書館）
21	月	
22	火	健康教室（野尻地区館）
23	水	
24	木	小学校２学期終業式 クリスマス会（保育園） らくらく筋トレ教室（野尻地区館）
25	金	中学校２学期終業式 ２保期納め（保育園） 小学校年末年始休校（１月６日まで）
26	土	中学校年末年始休校（１月７日まで）
27	日	
28	月	官公庁仕事納め 希望保育（保育園） 図書館年末年始休館（１月４日まで）
29	火	保育園年末年始休園（１月３日まで）
30	水	
31	木	

※都合により、変更・中止になる可能性があります。

12月まなびましょう



マスコット：マナビィデザイン：石ノ森章太郎

生涯学習に関する問い合わせ　大桑村公民館 TEL＊＊55-1020

教　室	会場	時　間	開催日
英会話〈昼〉	①	14：00	2、9、16、23
英会話〈夜〉	①	19：30	2、9、16、23
押し花教室	②	10：00	18
レザークラフト	⑦	9：30	1、15
陶芸教室	―	―	12月～2月は休講
コール・マルベリー	①	19：30	9、23
	②	19：30	2、16
詩吟岳風会大桑教室	⑥	9：45	2、9、16、23
リフレッシュヨーガ	⑦	19：00	2、9、16、23
あゆみ整体教室	⑦	19：00	8、22
フラ教室カパリリ〈昼〉	③	13：30	7、13
フラ教室カパリリ〈夜〉	―	―	12月～2月は休講
舞DANCE木曽＆日本舞踊はなやぎ	⑤	14：00	5、19
池坊いけばな教室	③	13：00	8、22
ヨガ・エクササイズ	③	20：30	2、9、16、23
太極拳サークル　円	②	10：00	7、21
	③	10：00	19
	⑤	10：00	5

会　場　①役場、②野尻地区館、③須原地区館、④殿分館、⑤村民体育館、⑥橋場分館、⑦弓矢分館

※各教室とも随時参加者を募集しています

広報おおくわ No.625
令和8年11月12日発行

















9月・10月のできごと

村の人口

1,448世帯（前月比 −6世帯）	男（人）	女（人）	計（人）
出生	0	1	1
死亡	1	4	5
転入	3	3	6
転出	5	0	5
総人口（前月比）	1,510（−3）	1,561（±0）	3,071（−3）

（11月2日現在・住民基本台帳登録人数）

12月の緊急当番医

日	緊急医名	電話番号
6日㈰	芦沢医院（上松町）	52-2018
13日㈰	古根医院（大桑村）	55-1188
20日㈰	田澤医院（木曽町開田）	44-2008
27日㈰	大脇医院（上松町）	52-2023
29日㈫	木曽みたけ診療所（木曽町三岳）	46-2266
30日㈬	奥原医院（木祖村）	36-2264
31日㈭	王滝村診療所（王滝村）	48-2731

木曽病院（木曽町福島） TEL 0264-22-2703
坂下診療所（中津川市坂下） TEL 0573-75-3118
中津川市民病院（中津川市） TEL 0573-66-1251

表紙によせて

10月2日、弓矢地区で工事中の上田沢橋で、大桑小6年生が舗装前の床版にお絵描きをしました。

上田沢橋は、国道19号線と大桑橋を繋ぐアクセス道路として長野県が施工しています。このお絵描き会は、地元で行われている公共工事を知ってもらい、建設産業の魅力や将来の職業選び等に役立ててほしいとの願いで木曽建設事務所が開催しました。

またとない貴重な体験をした児童たちの思い出が、橋と共に残り続けます。



大桑村公式LINE
友だち追加はこちら

大桑村公式
Instagram

デジタル回覧板

発行／大桑村　399-5503 長野県木曽郡大桑村大字長野880番地1
TEL 0264-55-3080　FAX 0264-55-4134
HP https://www.vill.okuwa.lg.jp/
mail info@vill.okuwa.lg.jp
印刷／木曽オールプリント株式会社

「広報おおくわ」は環境に優しい再生紙とベジタブルインキを使用しています。